

小松電機、韓国社と提携



小松電機と韓国・東友の提携調印式(松江市で)

自動シャッター輸出

来年、KD生産も

自動高連開閉シャッター製造の小松電機産業(本社島根県八雲村、社長小松昭夫氏)は韓国の企業と技術協力を含む業務提携を結び、韓国で市場開拓に取り組み、超音波を利用したヒニール製の自動シャッター「門番」を輸出し、販売する。韓国側は来年には現地組み立て(KD)も手がける。小松電機は台湾やドイツへの輸出実績があるが、今後、世界各国に技術供与する形で「門番」を売り込んでいく。

今回提携に調印したのは東友トレーディング&エンジニアリング(本社ソウル、社長曹秀煥氏)で、工場のレイアウト設計やコンプレッサーの組み立てなど今年の年商は十億円。従業員十二人。東友は小松電機の総代

理店として「門番」を輸入販売する。当初年百台、来年は五百台を販売する予定。
「門番」は物体が近づくとき超音波センサーが感知、シャッターが自動的に巻き上がり、通過すると閉まる。開閉を操るモーターはドイツのサイクロン社の歯車を使い、耐久性にも優れている。韓国では冬が厳しく、作業環境向上にとって工場の高速シャッターは不可欠で、今後市場拡大が期待できる。
さらに東友は来年をめぐって建物面積九百九十平方メートルの工場棟を新設、「門番」のKD生産に入る考え。すでに小松電機の三

人の技術者が技術指導を始めている。「門番」は韓国語でも同じ意味で、このままブランドとして普及させる。これにより東友の来年の年商は二十億円を見込んでいる。
「門番」は四角角の大きさに一基百五十万円。小松電機は昨年台湾に十基を納入した。昨年の総生産台数は三千五百台、今年は五千五百台にまで増やす。小松社長は「門番」のブランドを最終的には技術供与の形で各国に広げていきたい」と話している。
小松は従業員六十人、年商二十四億円(九〇年七月末)。下請けの多い島根の企業の中では独自の自社製品を持つ数少ないベンチャー企業でもある。

小松電機産業

韓国企業と業務提携 自動シャッター輸出・KD

【松江】自動高連開閉シャッター製造の小松電機産業(本社島根県八雲村、社長小松昭夫氏、資本金千三百万円)は韓国社と業務提携し超音波を利用したヒニール製の自動シャッター「門番」を輸出する。韓国社に技術供与して来年には現地組み立て(KD)も進めていく。小松は台湾やドイツへ輸出した実績があるが、今後、世界各地に技術供与して「門番」を売り込んでいく。
提携先は東友トレーディング&エンジニアリング(本社ソウル、社長曹秀煥氏)で、工場のレイアウト設計やコンプレッサーの組み立てなど年商約十億円、従業員十二人の企業。東友は小松の総代理店として「門番」

を輸入販売する。当初年間百台、来年は同五百台を販売する予定。
「門番」は物体が近づくとき超音波センサーが感知、シャッターが自動的に巻き上がり、通過すると閉まる。開閉を操るモーターはドイツのサイクロン社の歯車を使い、耐久性にも優れている。冬が厳しい韓国では作業環境向上に工場の高速シャッターは不可欠。
さらに東友は来年をめぐって建物面積九百九十平方メートルの工場棟を新設、「門番」のKD生産に入る考え。小松は三人の技術者を指導のために派遣している。